

白根北中学校
学校だより

教育目標
自立 友愛 勇気



式辞

早朝や夕方にさかんに聞こえていた白鳥の鳴き声も、いつの間にか

少なくなり、私たちにとっては

心待ちにしていた春が今年も

すぐそこまで近づいている

気配が感じられます。

本日、ご多用の中、

学校運営協議会の皆様を

はじめ、白根北中学校区の三つの

小学校の校長先生方からご臨席を

賜り、第三十四回卒業証書授与式を

挙行できますことに、厚く御礼申し

上げます。

一一八名の卒業生の皆さん卒業

おめでとうございます。今年の教育

活動の様々な場面における皆さんの活躍に心から敬意を表します。

ところで皆さんは、間もなく中学校生活を終えようとしていますね。

それは同時に小学校から続いた九年間の義務教育が終わることにもなります。

私は今年、折に触れ皆さんは中学校を卒業すると、そちら側から

こちら側に来ると話したのを覚えていますか。中学校生活は、皆さんが

社会に足を踏み入れる直前に立っていると言うこともできます。これまで

の学校生活では、お家の人や先生方を始め、多くの人たちが皆さんを見守り、励まし、支えてくれました。

今から一か月後の四月。もしかして

皆さんが目にする景色はこれまでとあまり変わらないように見えるかも

知れません。しかし周囲の目はそうではありません。義務教育を終えて、社会の一員として歩み始めた一人の大人として見られることを忘れずにいてください。

今日は皆さんの卒業にあたって私が若い頃に先輩の先生から聞いたお話しを紹介します。

今はあまり見かけなくなりましたが、昔は中学校を卒業して高校へ

進学せずに就職する人が何人かいました。ある年のことです。中学三年

生を受け持つ先輩の先生の学級に、家庭の事情から、就職を希望する女

子生徒がいました。しかし、現実には

甘くはありません。中学を卒業しただけではなかなか働き口が見つからないのです。それでも何とか

彼女が探してきた就職先は

東京にある美容院でした。



もともと美容の仕事に興味のあった彼女は喜んで先生に報告しました。

幸い、就職には特別な試験はありませんでしたが東京まで面接に行く必要がありました。ところが彼女は家庭の事情で、お家の人が付き添うことができません。そのため、私の先輩が面接について行くことになりました。

面接当日の朝、彼女と先輩は二人で東京に向かいました。電車を乗り

継ぎ辿り着いたお店に入ると、いかにも怖そうな店長さんが奥から出て

きました。先輩の話によると、店長さんはその面接で彼女を「まだ中学生だから」という目では見てくれな

かったと言います。

お互いに初めて会ったばかりだ

というのに、店長さんはあいさつもそこそこに彼女を見ていきなり言いました。

「お前は何の仕事ができるんだ」

突然のことに驚き、彼女も先輩も固まってしまい、何も答えることが

できません。少しは美容の仕事を知っていた彼女ですがお店の仕事など何一つ、できるはずもないのです。黙っている彼女に店長さんは続けて言います。

「黙っていても分からないだろ」

「お前は俺の店のために

何ができるんだ」

「そうだよ。お前は

何にもできないんだよ」

「お前を雇って俺に何の得が

あるんだ」

一緒にいた先輩も助けてあげることはできません。一言も答えられない彼女の周りに長く重たい時間が流れました。

どれだけの時間、沈黙が続いたでしょう。ようやく店長さんが彼女に静かに尋ねました。

「お前、あいさつと返事はできるか」

それを聞いた彼女は、その日一番の大きな声で、

「はい、できます」

「よろしくお願いします」

と答えました。それを

聞いた店長さんはすぐに、

「よし分かった。採用だ」

「お前のそのあいさつと返事に

俺は給料を払う」

「四月からうちの店に来い」

こうして彼女は社会人としての

一歩を踏み出したということです。

さて卒業生の皆さん。皆さんがこの三年間、あるいは義務教育の九年間で得たものは何ですか。それぞれ振り返ってみてください。何が思い浮かぶでしょうか。大きく成長した心と身体。それとも身に付けた豊富な知識や学力。もしかしてかけがえない仲間の顔を思い浮かべた人もいることでしょう。

皆さん一人一人はこれから、自身で将来を切り拓くとともに、日本を支え豊かな社会を創る担い手と

なる存在です。仮に得たものは違ってもこのお話しのようにあいさつや返事、時間を大切にすることなど、周りから見て、当たり前と思われることを大切にできる人になってください。皆さんが得たものを糧にしなから、今後も一人一人が大きく飛躍することを期待しています。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日はお子さまのご卒業、おめでとうございます。心より、お喜び申し上げます。義務教育の九年間における数々の思い出を振り返った時、感慨もひとしおのことと存じます。またこれまでの当校の教育活動へのご理解とご協力に対して、感謝申し上げます。大変ありがとうございました。卒業生一人一人の輝く未来を祈念して式辞といたします。

令和八年三月三日

新潟市立白根北中学校長

山口 靖博



予行練習の様子

◆ 入選おめでとう ◆

第66回 新潟県児童生徒徒絵画・

版画コンクール

特選 1年生 ●●●●



●●さんの作品

令和8年3月3日(火)

令和7年度 卒業式号

文責 校長 山口 靖博